

令和元年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 友達への思いやり	3 道徳・心の教育の充実
<p>学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。</p>	<p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）</p>
<p>【学校から】○「一人一人を大切にされた指導や対応」において、昨年に比べ児童の「3」「4」の割合がやや減少している。また、児童・保護者とも「1」の割合が1%あることを謙虚に受け止め、さらに一人一人を大切にされた指導・対応を行っていく。○児童も保護者も「友達となかよくしている」と思っている割合は大きい。今後も、学校は児童同士をつなぐ取組を進めるとともに、「1」評価の1%を僅かだと考えずに注意深く子ども同士の関係を見つめていく必要がある。○「道徳・心の教育の充実」については、昨年と同様、教職員の評価は高く保護者の評価と差がある。11月の心かがやけ月間等の取組や周知方法を今一度見直し、なお一層の家庭との連携・協力を図っていく必要がある。</p>		

②確かな学力を育む教育の推進

4 意欲的な学習態度	5 授業力向上	6 ICT活用
<p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p>
<p>【学校から】○「学習意欲」においては、僅か1%であるが、児童の評価が高くなったのは嬉しいことである。しかし「わかる授業」に関して、教職員の意識と児童の意識の間に6%もの大きな差がある。これは、授業のスタイルが教師主導になっている可能性が否定できない。学習者である児童の立場になって「わかる」＝「楽しい」授業になるようにさらに研修を深めていく必要がある。○「ICT活用」については、「3」「4」の割合が、昨年比で、保護者12ポイント増、教職員25ポイントの増、であった。タブレット活用モデル校の指定を受け研究が進んだことや、それに伴い授業参観等でタブレットを活用した授業を行うことが多くなったことが要因と考えられる。これからも、大いに活用を図り、分かりやすい授業づくりに取り組んでいきたい。</p>		

③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり
<p>子どもは、好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>
<p>【学校から】○年間指導計画に沿って体力づくり・食育の推進等を行ってきたが、保護者・児童ともに昨年より「3」「4」の評価が下がっている。学校保健委員会の取組周知等も含め、改善を進め、目に見える形で健康づくりを行ってきたい。</p>

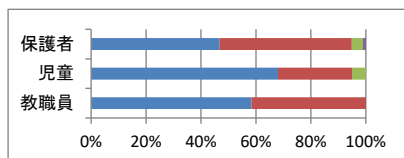
①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実	②特別支援教育の推進	
8 児童生徒理解	9 いじめや問題への対応	10 学校の支援体制
<p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。</p>	<p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>	<p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>
<p>【学校から】○「児童理解」において、児童の「2」「1」評価が8%あり、「先生に気持ちを分かってもらえない」と思っている児童が少なからずいることが課題である。教職員の評価は逆に「4」「3」が94%と高く、教職員が「分かっているつもり」になっていることが数字からも伺える。きずなアンケートだけでなく日常生活や学期に1度のスマイルタイムなどで、しっかり児童と繋がりを作っていくことが大切である。○「いじめ問題への対応」についても同様で、相談や表出したいいじめに対してはすぐに真摯に対応を行っているが、児童や保護者には「2」「1」の割合がそれぞれ8%、11%見られ、学校生活に不安を感じておられる思いが見て取れる。信頼される学校づくりのためにも、学校・学級だよりやまめな連絡などで保護者との連携を進めていく。○特別支援体制については、今年度は年度当初から「共同及び交流学習」を学校全体で大きく推進してきた。すぐに結果につながるものではないが、保護者からは94%の「3」「4」の評価をいただいております。来年度も、大局的なことから細部に至るまで、さらに見直し・改善を図っていかねばならないと考えている。</p>		

①子どもたちの身近な安全対策の充実

②最適な学習環境の整備

11 安全と事故防止

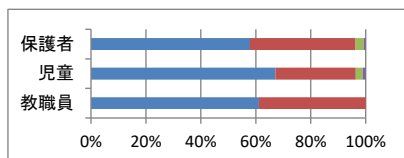
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいますか。



【学校から】○日頃より、校内事故や交通事故も含め、事故防止には最善の注意を払って取り組んでいる。今後も、児童が自ら危険を回避したり、安全に留意して自主的に活動したりする安全防災教育につとめていきたい。

12 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されているか。

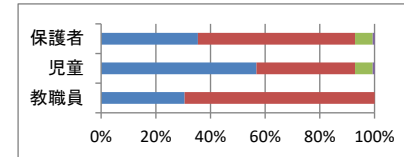


【学校から】○新設校であるが、先の熊本地震で損傷した部分からの雨漏りについては、本年度このアンケート後に修理を行った。遊具点検については、毎朝教職員が欠かさず行っているが、保護者には周知されていないこともあり、評価が100%には至らなかった。

③家庭・地域社会との連携強化

13 教育方針・目標の理解

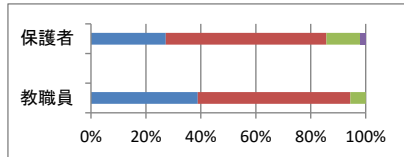
学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めているか。



【学校から】○学校から保護者へは、学校だより、PTA総会、懇談会などを活用し、事あるごとに教育方針・目標を伝え、児童には始業式・終業式・集会などで伝えてきた。保護者の「3」「4」の割合が昨年よりほんの僅か伸びている。○また、児童の安心安全のために昨年度立ち上げた「スクールガード（見守り隊）」は不審者・交通安全・地域連携の点で、教育活動に大変功を奏している。○教育課程においても、地域の方に講師として話を伺ったり、交流を深めたりする学年・教科もあった。

14 家庭や地域との連携協力

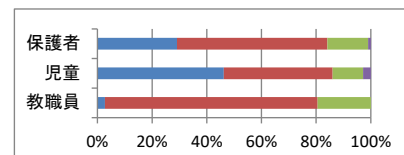
学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示しているか。



④本校の教育

15 あいさつ

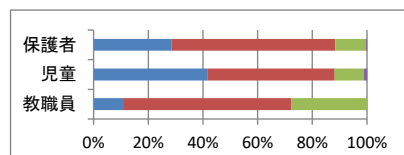
子どもは、先生や友達、地域の人に「自分から元気に笑顔で」あいさつができていますか。



【学校から】○「あいさつ」に関しては、地域の方のご協力もあり、大変よくなってきたと感じる。保護者の「3」「4」の評価が3ポイント、教職員が15ポイントも高くなっているのは、家庭・学校・地域が一体となって意識し、取り組んできた成果と言える。○「話を聴く」ということは、本年度の重点目標の一つであった。保護者の評価は8ポイント増、児童と教職員はそれぞれ3ポイント、19ポイントの減である。全校朝会や集会等の様子を見るとかなり達成できているようであるが、この「話を聴く」の中には17の「学び合い」同様、「しっかり受け止め、考えながら」という要素も入っているため、児童・教職員ともそれを踏まえて目標値が高くなっていることも推測される。継続して「聴く」指導の充実を図っていきたい。

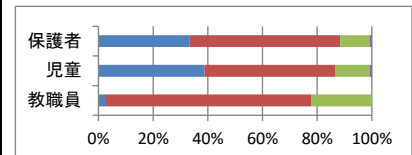
16 聴く態度

子どもは、学年に応じて「話をしっかり聴く」ことができていますか。



17 学び合い

子どもは、授業中「話し合いをしっかりと、自分の考えを持つ」ことができていますか。



来年度の具体的な取り組みについて

○教育目標方針については、さらに分かりやすく、学級・学校便り、PTA新聞、諸団体合会などあらゆる機会を通して情報発信を行う。ホームページの充実も図り、情報公開に努めていく。

○児童一人一人を大切にしたい指導や対応は、日記やきずなアンケート、スマイルタイムなどを継続して行い、行動として表面に現れる現象だけでなく、児童の気持ちに寄り添うよう努めていく。さらに、スクールカウンセラーや心のサポート相談員と連携をし、児童の悩みや困りごとに適切に対応していく。

○今年度は、タブレット活用の研究を深め、対話的な学び合いを進めてきた。研究発表会において、その成果が表れたところである。来年度もさらにICTの活用と教材研究を充実させて、児童が主体的に学びに向かうような授業づくりに取り組んでいく。

○熊本市学力調査を受けて、児童の学力を分析し、よりきめ細かな指導の工夫改善に努めていく。また、体制を整備し、個に応じた学習の支援や基礎基本の徹底を行う。

○安全安心、部活動、総合的な学習を主として、地域・外部との交流や活用をさらに進めて、龍田西の特色ある学校づくりを進めていきたい。昨年度に引き続き、スクールガードの取組が、地域ぐるみの子育てに繋がっており、児童の挨拶や生活規範の確立に功を奏している。来年度は、部活動も地域の体協組織に移行予定なので、それも含め、さらに地域と連携をした教育活動を進めていく。

学校関係者評価

○不審者避難訓練を参観したが、子どもも教職員も真剣に取り組んでいた。教室の隅にクラスの子どもたちが固められており、先生が子どもたちの盾になっていた。先生の子どもを守ろうとする姿に感心をしたし、学校の安全教育や安全指導について保護者にも知ってもらいたいと思う。

○運動会も、子どもと教職員が一体となって素晴らしいものができた。PTA会長が呼びかけて、雨の中、保護者の方がたくさん片付けに参加してくださっていた。しかし一方で、リレー終了後閉会式を待たずに帰宅された方や、昇降口あたりでただ待っておられる方もおられた。全員の保護者が少しずつでも子どものために協力していただくことが大事であると思う。

○タブレット活用についても、どの学級も子どもたちが授業の中でスムーズにしっかり活用していることに驚きを感じた。先生の姿も良い。先生方に共に伸びる姿がある。学校の誇りである。今後、さらに学力向上につなげて行って欲しい。また、保護者にも広く知らせていく意味で、授業参観でも使用して欲しいし、懇談会等で子ども達と同じような授業を保護者向けにしてみても良いのではないだろうか。

○小中連携について、中学生と何か一緒にやる機会を持つてはいいかだろうか。

○地域との連携については、学年の行事に呼ばれたり体験学習と一緒にいたりすることで、子ども達も名前を覚えてくれた。今後も続けていくことが大切であり、個人個人が、学校と地域をつなぐ役割を担っていかないとけない。地域の中で育つ子どもたちなので、異動がある教職員ではなく、地域にコーディネーターが必要である。

○これからも魅力のある学校づくりを行って欲しい。教師が今取り組んでいることを更に育成すると共に、保護者も今よりも学校に関心を向け、地域の力も借りながらより良い伝統を育んでもらいたい。